

事例研究報告

特別支援学校中学部生徒に対する
不登校支援と進学後の切れ目ない支援の
つなぎ方について

生徒の実態

【学校生活に関する実態】

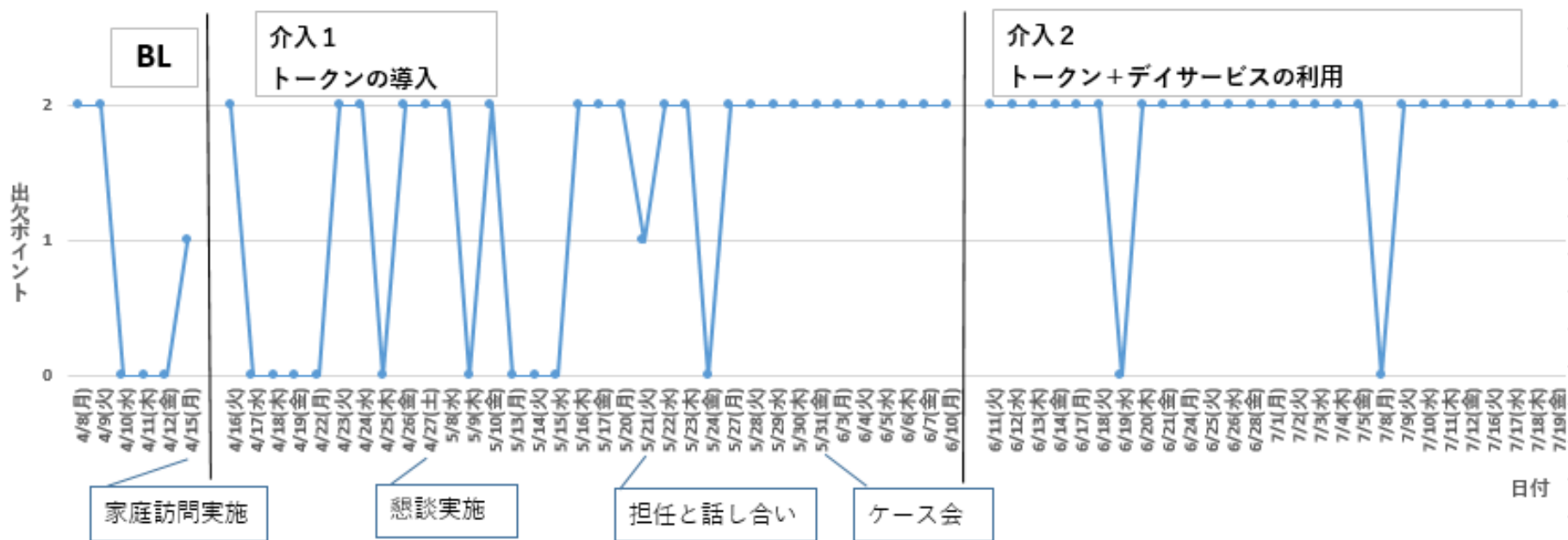
- 中学部生徒 知的障がい。
- 愛着障がい。心の拠り所となる教員（キーパーソン）には積極的に話しかけることが多い。
- 話を聞いてほしいときは、小さい声で「～なんよなあ。」
「どうせ～。」などつぶやいて知らせることが多い。

【家庭環境に関する実態】

- 家庭からの手厚い支援を受けることが難しい。
- タブレットで遊ぶのが好きで、夜更かしをしてしまうことが多い。
- 生活リズムが整いづらく、昼夜逆転生活になることが多々ある。
- 保護者に乱暴な言葉遣いになってしまい、けんかになることもある。

登校状況：4～7月

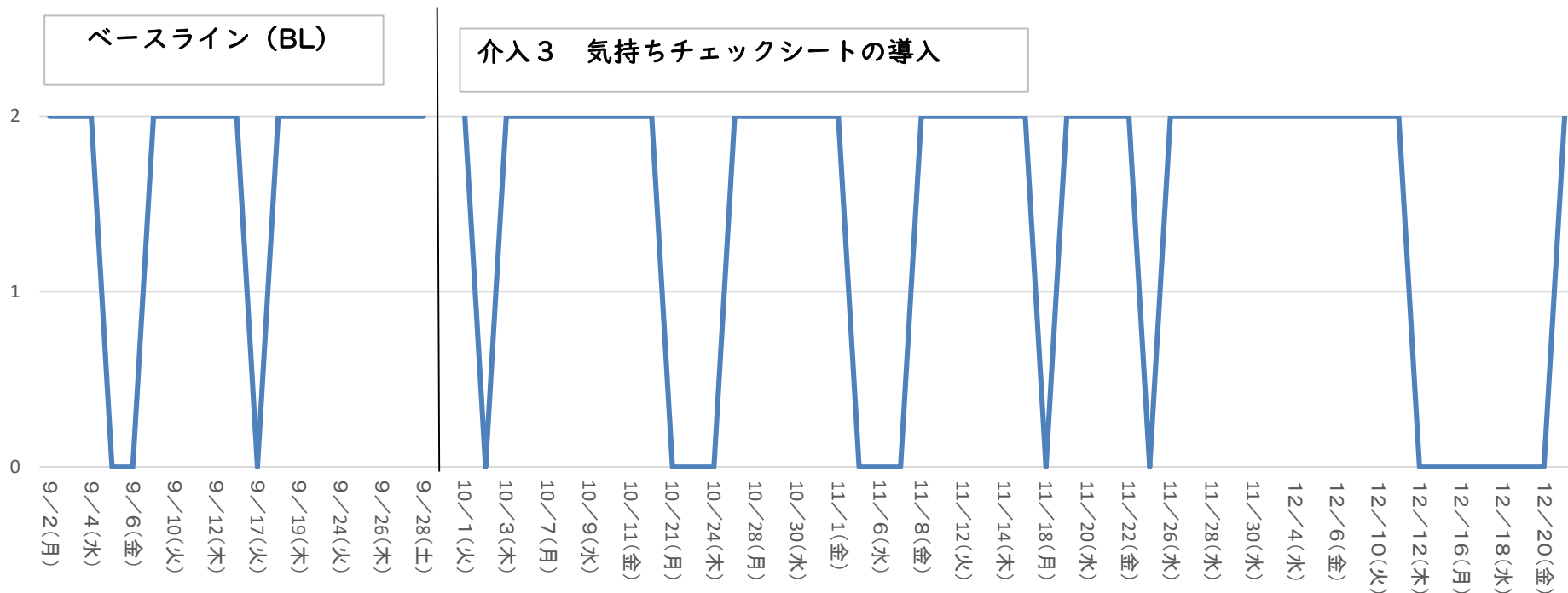
登校状況について



出席：2点
遅刻：1点
欠席：0点

登校状況：9～12月

登校状況について（9～12月）



出席：2点
遅刻：1点
欠席：0点

保護者の願い

「毎日学校に行ってほしい。
将来的には一般就労をしてほしい。」

教員の願い

「毎日学校に登校してほしい。
高等部への進学後も、切れ目なく支援
を続けたい。」

アドバイザーからの助言

- 行事前後に欠席することが続くため、頑張りすぎて体調を崩したり、生活習慣が崩れたりしていることが考えられる。
- 自分の体調や精神的な健康状態を把握し、セルフコントロールする力や、自分にとって体調を崩さない程度のペース配分を知ることが重要である。
- 気分が良い・悪いときでそれぞれどんなことがあったかを一言メッセージのような形で記録していくとよい。
- 自分のその日の気分や体調を点数化してセルフチェックできるシステムを取り入れてみてはどうか。必ずしも点数は安定しなくても良い。

助言を受けての見直し

- 毎朝、その日の気持ちや体調、食事の有無について担当教員と話す時間を設ける。
- 体調を崩す前に、教員から休憩を促したり、無理をしていないか確認するようにする。
- 規則正しい生活習慣を学ぶ機会を設ける。
- タブレット使用時の約束を再確認する。
- トークンエコノミーシステムを継続しつつ、ボーナスポイントをもらえる機会を増やす。
- 切れ目ない支援を目指すために、中学部と高等部の教員で情報を共有する。

指導の手続き

- ・ 気持ちチェックシートを作成する。
毎朝点数をつけ，グラフ化する。
- ・ その日の気持ちを一言で書くようにする。
内容について話す時間を設ける。
- ・ 1週間続けて登校することができたら，
サービスポイントをつける。
- ・ 日常生活の中で，お手伝い活動以外にも
ボーナスポイントを積極的に出す。

記録方法と記録①

今日のきもち ♥ チェックシート

日付	行事	今日の点数	一言メモ			
12/3		10点中... 8点	ちょっとしんどい			
			晩ご飯	夜寝た時間	朝起きた時間	朝ご飯
			○・×	3:00	8:00	○・×
12/4		10点中... 8点	なんとなく			
			晩ご飯	夜寝た時間	朝起きた時間	朝ご飯
			○・×	10:00	7:00	○・×
12/5		10点中... 7点	頭がいたい			
			晩ご飯	夜寝た時間	朝起きた時間	朝ご飯
			○・×	12:00	7:30	○・×
12/6		10点中... 8点	調子がいい			
			晩ご飯	夜寝た時間	朝起きた時間	朝ご飯
			○・×	11:30	7:30	○・×
12/11		10点中... 6点	ちょっとしんどい			
			晩ご飯	夜寝た時間	朝起きた時間	朝ご飯
			○・×	11:00	7:30	○・×

- 気持ちチェックシートを作成し，毎日記録できるようにした。
- 点数は10点満点とし，その日の体調や気持ちによって点数をつける。
- 一言メモは何を書いても良いことにした。
- 食事の有無や就寝，起床時間についても記録することにした。

記録方法と記録②



・点数の移り変わりがわかりやすいように、その日の気持ちをグラフにも記入するようにした。

※指導開始当初は欠席した日を0点で記録していたため、後に出てくるグラフと形が異なっている。
12月より欠席した日は点数を記入していない。

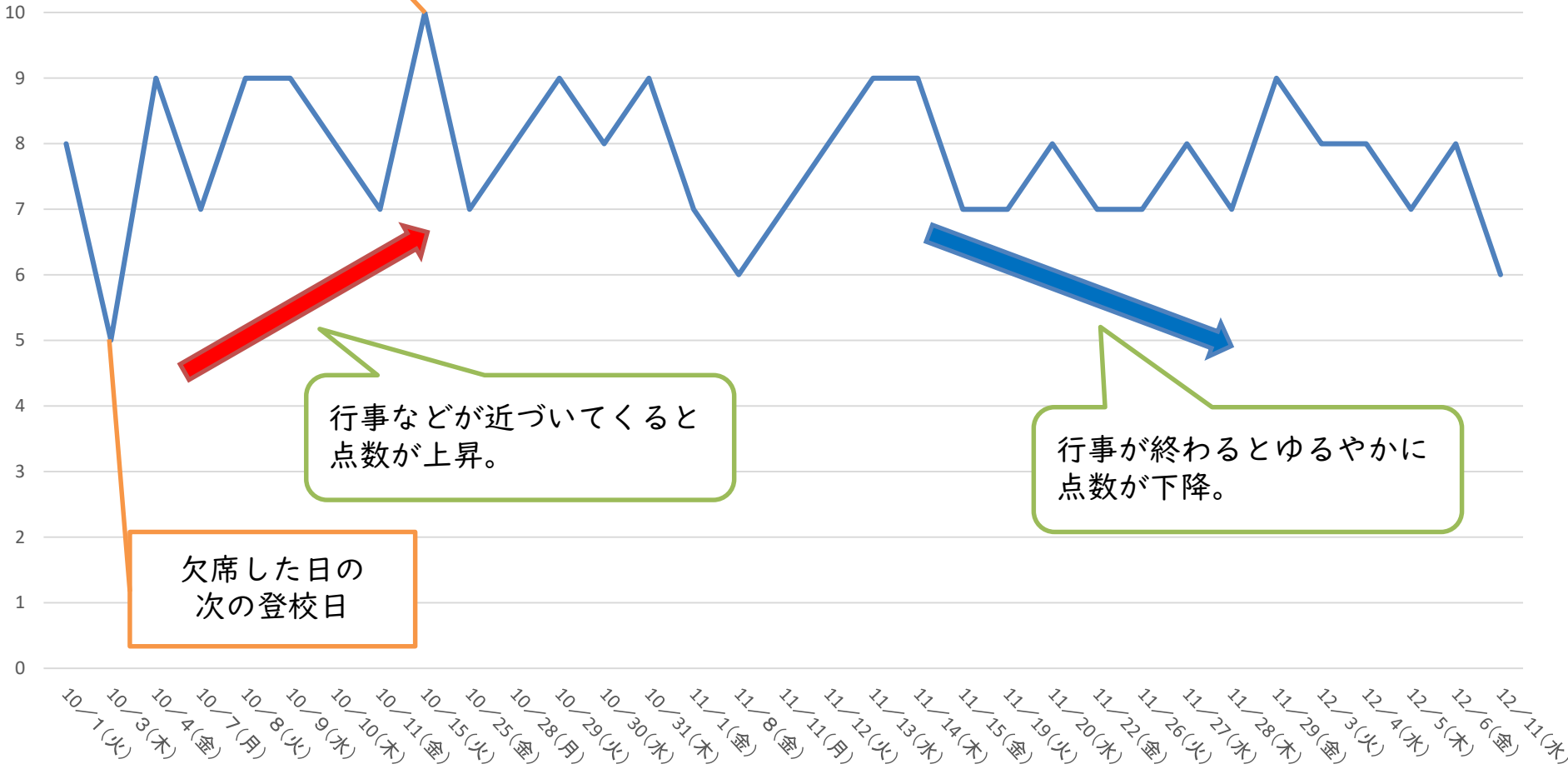
気持ちの点数の推移

修学旅行前日

欠席した日の
次の登校日

行事などが近づいてくると
点数が上昇。

行事が終わるとゆるやかに
点数が下降。



指導の成果①

- 毎日、その日の体調や気持ちを点数化して記録を取ることで、行事の前には気持ちの点数が上がり、行事後にはゆるやかに下がることがわかった。
- この傾向を受けて、対象生徒に、休憩するように頻繁に言葉かけができた。体調や気持ちに大きな変化がないかこまめに聞き取りをしたりすることができた。
- 点数をつけて、グラフで視覚的に示すことで、本人も体調に気をつけたいという気持ちが芽生えつつある。
- 一言メッセージの内容から、食事の有無や睡眠時間の長さが体調や気持ちにも影響していると考えられる。
- これからも、規則正しい生活を送ることができるよう指導していきたい。

指導の成果②

- コンサルテーションの全体研修において、「中学部から高等部へ，継続した不登校支援の方法について」というテーマで情報交換や指導方法についてグループディスカッションを行った。
- 学部を超えてグループディスカッションを行うことで，様々な角度からの意見を聞くことができた。また，**本事例の対象生徒の実態について，高等部の教員と情報共有をすることができた。**
- **多くの教員に本生徒の実態や取り組み内容について知ってもらうことは，切れ目ない支援を続けることにつながると感じた。**

ここが成功のポイント

毎日、自分の気持ちについて考える時間を設けセルフコントロールする力を育むこと

学部を超えて教員間で情報共有をすること